

令和2年4月就任の副院長3名を紹介します。

●箱木 知也 副院長

この度副院長に就任させていただくことになりました。私も加西に来て27年過ぎました。平成5年7月に私は大阪の病院に居たのですが、大学から急遽加西病院へ行くように連絡が来ました。当初は家族を大阪に残して単身病院に勤めるつもりでしたが、当時の副院長、および病院事務より、「先生のことは期待しているので住居を用意するから家族ともども加西に住んで、病院を守ってほしい」と頼まれました。その時から、私たちは加西市民となり、加西市および加西病院の27年間の歴史をみてきました。加西病院で子供が生まれ、その子供たちは加西の小学校へいき、加西で育っていきました。

今回、私たちを育ててくれた加西市に恩返しをしたいと思い、副院長を引き受けましたが、臨床ばかりやってきたので管理業務に関してはお役に立てないことばかりで申し訳なく思っています。また、臨床もこれまで通りやらなくてはならず、身を削る思いで、また、皆さま方および病院職員に助けをもらいながら頑張っていきたいと思えます。

●河合 恵介 副院長

私は、小野市出身で神戸大学医学部卒業後、循環器内科学講座に入局し、神戸大学および関連病院で研修および研究を行いました。心臓病、特に心不全、心筋症（拡張型心筋症、肥大型心筋症）と心エコー図検査が専門です。2年間の米国留学後の2002年に医局人事で当院に赴任いたしました。当院赴任後、狭心症を判定するための心臓核医学検査（心筋シンチ）を山邊元院長から学び、現在は心臓核医学検査も担当しています。

以前の広報かさいでも野口先生が紹介していますが、当院の心臓病についての診断、治療が近隣の大病院に劣るとは思っていません。特に急性心筋梗塞、不安定狭心症は発症から治療までの時間が短いほど心臓へのダメージが少なくなります。つまり次のように言えると思います。

「激しい胸痛（急性心筋梗塞等）は時間との闘い。遠くの大病院より、近くの加西病院へ。」

加西市民の方が市立加西病院を受診されることが当院の将来につながります。

●山中 恵 副院長

就任のご挨拶を申しあげます。私は加西市生まれで看護専門学校を卒業後、現在に至るまでずっと加西病院で勤めさせてもらっています。振り返りますと病院は、その時代時代で病院の機能を変化させ、現在は急性期と回復期医療をミックスした地域多機能型病院に変換しました。私自身は、病棟、外来、地域医療室、訪問看護ステーションと様々な部署を経験し、患者さんから多くの温もりやおもいやりを頂きながら、看護師として人として成長させてもらうことができました。どの時代においても病院は、皆さまに寄り添い伴走する役目があります。これからも住民の方々が必要とする医療を、心をこめて提供できるよう職員一丸となり、取り組んでまいりたいと思えます。

またこの度、新型コロナウイルスの感染拡大のなか、病院サポーターの会の皆さまをはじめ、多方面の方々から様々なご支援やご協力を頂いたことに感謝を申し上げます。できる感染対策をしっかり行い、この危機を皆さまと共に乗り越えていきたいと思えます。



左から 山中副院長、河合副院長、箱木副院長

広告

広告

5/28 荒木さんに さわやか市民賞



▲受賞を喜ぶ荒木奏志さん（左）と西村市長

加西市は、芸術等の分野で優れた成績を収められた荒木奏志さん（富田小2年）にさわやか市民賞を贈呈しました。荒木さんは、第87回全国書画展覧会で広島県教育委員会賞を受賞、第63回JA共済小・中学生書道コンクールでは兵庫県教育委員会賞を受賞し、同全国大会で家の光協会会長賞に輝きました。荒木さんは「字がもっと上手になったら将来は習字の先生もやりたい」と話しました。

6/4 あびき湿原が県指定文化財へ



▲左から 尾内顧問 山下会長 兼松教育長

希少な動植物が多種生息している県内最大級のあびき湿原が令和2年3月13日に兵庫県指定文化財に指定され、このたび指定書伝達式を行いました。今も残る貴重な生態系を将来に伝えるため、あびき湿原保存会は、地域の協力を得ながら保全活動を行っています。山下公明会長は『指定を機に責任も感じるが、湿原の魅力伝えていきたい』と指定を喜ばれました。

6/17 お米づくりに挑戦 バケツで稲作り



▲自分たちのバケツに苗を植える児童たち

賀茂小学校4年生が総合的な学習の時間に田んぼに見立てたバケツを利用して地域特産の紫黒米の栽培に取り組みました。賀茂地区ふるさと創造会議の皆さんから米の品種の特徴、各作業の役割など説明を受けたあと、各自のバケツに植え付けをしました。また、キヌヒカリなど他の品種の栽培も同時に行い、紫黒米の特徴を今後観察していきます。

6/18 生き生きシニア活動顕彰



▲「朗読ボランティア かしの実グループ」の皆さん

「朗読ボランティア かしの実グループ」の活動が評価され、2020年度ニッセイ財団「生き生きシニア活動顕彰」を受賞されました。同グループは、「広報かさい」の音声CD作成など、長年にわたって視覚障害者等への福祉向上に努める活動をされています。「多くの方々に活動を知っていただき、困っている方に利用してもらいたい」と代表の垣内さんは語ってくれました。

まちの出来事

広告

広告